

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農業費 項：農業振興費 目：主要農作物対策

事業名 中山間地域次世代米ブランド育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内4117)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額： 9,800 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,800	9,800	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

新型コロナウイルスの影響により米の需要が減少し、大量の余剰米が発生したことから、市場ではコロナ前の米価の回復が難しく、生産者や流通関係企業の経営の悪化及び米産地の存続が危ぶまれている。

また、米の主産地では、コシヒカリに代わる新たな良食味主食用米や地域の特色ある酒造好適米について、開発・育成及びブランド推進が強力に進み、値崩れの影響も抑えられており、当県でも産地化が望まれている。

(2) 事業内容

中山間地域の強み（冷涼な気候、昼夜の温度差等）を活かした米づくりの推進で農家所得の向上と、良食味ブランドの品種選定と産地化に向けた支援、岐阜県オリジナル酒造好適米の産地化を支援する。

ア 良食味ブランドの育成

- ・ 品種選定及び産地化に向けて、栽培実証ほ場面積と生産者の増加
- ・ 販売戦略（モニタリング調査等）の構築

イ 県オリジナル酒造好適米の育成

- ・ 産地化に向けて、栽培実証ほ場面積と生産者の増加
- ・ 販売戦略（実需者の求める品質、量、販売先等）の構築

中山間地域において農地の保全は、多面的機能の維持・発揮のために必要不可欠であり、転作推進の一方で、一定面積の水田活用はやむを得ない環境である。また、少子高齢化や地域過疎が急速に進む中山間地域において、他県産米や既存の米との差別化により地域活性化を図る取組みへの県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

採種管理事業費（取組みの一部類似）

需要対応型ぎふ米産地ブランド確立支援事業（取組みの一部類似）

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	262	
需用費	529	消耗品費(434)、燃料費(39)、会議費(6)、修繕料(50)
役務費	181	
委託料	3,869	
使用料	159	
合計	5,000	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画

第6章1 (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり

③水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開

(2) 国・他県の状況

中山間地農業の持つ多面的機能の維持

農林水産業の高付加価値化と輸出力強化の推進検討

(3) 後年度の財政負担

ぎふ農業・農村基本計画の終期（R 7まで）

(4) 事業主体及びその妥当性

中山間地域の米施策に関わることで、県が主導して推進する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

米の消費量が減少傾向にある中で、中山間地域の生産者の所得確保に向けた良食味米の育成及び県オリジナル酒造好適米の育成と、適した品種での産地化を進め、新たな米のブランド化を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R3)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	
					達成率	
県育成品種の育成・ブランド化	0	/	0	0	2	/

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p>
令和3年度	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	コロナ禍で米の消費量が減少して、余剰米が発生し、コロナ前の米価の回復が見込めない中、早急に県主食用品種の良食味ブランド化及びオリジナル酒造好適米の育成が必要である。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	新たな品種の育成・導入により、作期拡大と作付面積の増加が期待でき農業所得の増大に資する取組であることから、本事業の有効性は高い。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	計画や進捗状況、取組成果について関係機関と検討を図るとともに、必要に応じて、生産者団体等と連携し、技術確立の効率化に努める。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 地域に適した米の品種選定や、連携先の確保、協力体制を構築する他、ブランド化が図れる適正品種の育成を加速化するとともに、固定客確保を目指した販売戦略の確立が必要。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・ 実需者ニーズの把握とマッチした品種の選定、育成 ・ 連携体制の構築と産地化に向けた支援 ・ 生産から販売体制まで一貫したブランド化戦略の確立
